

日本ロレンス協会ニューズレター No. 42

2022年4月28日

日本ロレンス協会会長
田部井 世志子
日本ロレンス協会副会長
石原 浩澄

第53回大会のお知らせ

会員の皆さまにおかれましては、お変わりなくご健勝のことと存じます。さて、2022年度の日本ロレンス協会第53回大会は、本来であれば鳥飼真人氏のご尽力をいただき高知県立大学永国寺キャンパスで開催する予定でしたが、オンラインでのライブ開催に変更させていただきます。まだまだ先行きが不透明なこともあり、3月中旬の高知県立大学の役員会にて、キャンパスの外部団体への貸出禁止期間を9月30日まで延長する基本方針が出されたため、このような決定に至りました。今年こそは皆さまに直接お会いできると楽しみにしていましたが、本当に残念です。また、開催日程につきましては6月18日（土）、19日（日）の2日開催を予定していましたが、今年度は6月18日（土）のみの1日開催に変更させていただきたいと思います。2日開催の可能性も探って参りましたが、最終的にご応募いただいた研究発表と企画の数から1日で収められると判断いたしました。ご理解・ご容赦のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

1日開催になりましたが、より活発で有意義な大会にするために今年は会員の皆さまの交流を促進するためにオンラインでの懇親会を計画することにいたしました。コロナ禍の中、これまで丸2年間、会員の皆さまとの交流の場を持つことができず、とても残念に思ってきました。そこで今年は対面実施と同様の懇親会はできないまでも、何らかの形で交流の場を設けたいと思った次第です。皆さまの積極的なご参加をどうぞよろしくお願いいたします。

オンライン開催にあたっては今年度もZoomを利用する予定です。招待メールの送信日程をはじめ、大会当日の段取り等々については、時期が近づいてきましたら、一斉メールとホームページを通じて皆さまにお知らせいたします。また発表者や企画に関わってくださる方々と当日に備えてリハーサルを実施する予定です。日程等、リハーサルの具体的な段取りが決まりましたら会員の皆さま全員に連絡いたしますので、オンラインでの視聴に不安をお持ちの方々も、この機会にぜひ接続をお試しく下さい。

今年度の「第53回大会」は2名の研究発表とシンポジウムを計画しております。概要は以下の通りです。まず井上麻未氏（聖路加国際大学教授）による「『息子と恋人』における病いと語り」というタイトルの発表から始まります。欧米では1960年

代以降、メディカルヒューマニティーズ（医療人文学、以下、MH）という様々な学問分野の組み合わせを含む学術体系が発展してきました。また、現在はとりわけ「ヘルスヒューマニティーズ」（以下、HH）という新たな人文科学の研究手法が注目を浴びつつあります。日本でも HH 研究に該当する研究は多くはないですが、モダニズム小説に関する同一テーマの研究は未だ十分になされていません。英国では MH/HH 研究を踏まえた Peter Fifield によるロレンスを含むモダニズム小説の研究がありますが、作家自身の「病い」に注目し、作品分析に関しては断片的なものに留まっています。そこで井上氏はロレンスの作品、とりわけ『息子と恋人』における「病い」と語りの関係を明らかにすることで、ロレンス小説における「病い」の分析を試みるという挑戦をなさいます。発表の司会を務めてくださるのは大平章氏（早稲田大学名誉教授）です。

続いて武藤浩史氏（慶應義塾大学名誉教授）による「*Aaron's Rod* のスピリチュアリティ——出版 100 周年を祝して」というタイトルでの発表です。ロレンスの *Aaron's Rod* 出版 100 周年（2022 年）を祝して、“spirit” をキーワードに本作品の現代的意義を探るのが目的です。ロレンスが霊肉二元論の脱構築を様々に試みたことは知られていますが、1910 年代の作品群においては肉（“the flesh”）に対立するものとして“the spirit” を霊という概念で捉えていたのに対し、*Aaron's Rod* には別種の脱二元論的戦略——“Spirit” の語源に当たるラテン語の “spiritus” のもともとの語義（「呼吸」、「空気」、「風」）の含みを活用して霊肉二元論の脱構築を行うという戦略——が潜んでいると指摘なさいます。さらにそれが、2004 年に出版され大きな反響を呼んだ宗教学者ポール・ヒーラス（Paul Heelas）、リンダ・ウッドヘッド（Linda Woodhead）の共著（*The Spiritual Revolution*）の中で当時の人々の宗教観の変化の分析に用いられる “spiritual” の意味に近いことを指摘することで、*Aaron's Rod* に見られるロレンスの思想が現代のイギリスにも繋がっていることを論証なさいます。盛沢山な発表、司会の浅井雅志氏（京都橘大学名誉教授）との議論のキャッチボールにも乞うご期待。

研究発表に続いて、「D・H・ロレンスの言語表現の独創性」という題目で大山美代氏（広島修道大学講師）の司会によるシンポジウムが行われます。ロレンスは “blood-consciousness” 等の彼独特の思想を表す用語以外に、ごくありふれた言葉の使い方にも強いこだわりがあるが、本シンポジウムでは 4 名の講師がそれぞれ “agony / anguish”、“darkness”、“pure”、“breaking / brokenness” というキーワードをロレンスのテキストの中から取り上げ、彼の特殊な言語感覚や表現の独創性を分析することで、これまで見落とされてきたロレンスの思想や文学的技法を浮き彫りになさいます。

まず大山氏は「ロレンスの “agony” と “anguish” をめぐる思想と表現技法の展開」というタイトルで、これらの言葉が中期頃までは多く用いられているのに対し、*The Rainbow* 以後、頻度が減っている点、また以前とは異なる文脈において使われるようになっている点を指摘なさいます。このような変化が生じた原因を追究しつつ、両

語に込められたロレンスの思想の変遷を、彼の伝記的要素と宗教的意識の観点から追うことで、彼の文学の特質を提示なさいます。

次に加藤彩雪氏（大妻女子大学専任講師）は「D. H. ロレンスの『多彩』な“darkness”」というタイトルで、“darkness”という語が必ずしも好意的、肯定的に用いられるだけではなく、時代や地域ごとに多様に変化していることを明らかにし、コンラッドをはじめとする同時代の作家たちとの比較を通じて、ロレンスの特異性を明らかになさいます。

また、田島健太郎氏（九州工業大学講師）は「D. H. ロレンスの初期～中期作品における同性愛的表象」というタイトルのもと、作品の登場人物ないし作者自身のいわゆる「性的アイデンティティ」の特定に終始する傾向にあった従来の同性愛の議論から抜け出し、“breaking”や“brokenness”といった「破壊」を取り巻く表現に注目することで、初期から中期に書かれた作品における同性愛的表象を新たな視点で読み直されます。

最後に「後期ロレンスにおける『純粹』探求の展開」とタイトルを掲げた大江公樹氏（早稲田大学大学院生）は、『無意識の幻想』、『翼ある蛇』、『チャタレイ夫人の恋人』を扱い、それぞれの作品において「純粹」の結びつくものが、順に性別、人種、そしてエゴイズムの超越といったように異なっているにもかかわらず、それらの間に通底するロレンスにとっての「純粹」の意味合いを提示なさいます。

文学研究において今は「主流を外れて」しまっているテキスト中心の読みや解釈こそが、読書体験における最初の「気づき」の源であり、ロレンス研究においては意義を持ち続けるだろうことを「若手講師の目線から提示したい」という、意欲に満ちた挑戦をなさいます。お楽しみに！フロアを交えた活発な議論を期待しています。

続いて総会を開きます。多くの会員の出席をお願いいたします。さらに今年は新たな試みとして、総会後に「オンライン懇親会」を実施したいと思います。現在のところ、ズームのブレイクアウトルームを用い、またルームのシャッフルを何度か繰り返すことで、少人数での懇談の場を複数回持つことができると考えています。詳細が決まり次第、またご連絡差し上げます。

今年もオンライン開催となります。従来の大会と同様、有意義なものにするために、執行部一同、当日の具体的な段取りを今後詰めて参る所存です。皆さまのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

協会事務局より4点、お願いと報告をさせていただきます。

1. 大会をZoomで実施するにあたり、具体的な開催手順等々、逐次ホームページと一斉メールで情報を共有させていただきたいと考えています。メールアドレスをご登録いただいていない方はホームページへのアクセスをどうぞよろしくお願いいたします。

2. 会費納入は同封の郵便振替用紙をご利用ください(手数料は協会負担)。会費は、一般会員は 5,000 円、役員は 10,000 円(但し顧問と退職した役員は 5,000 円)です。永久会員の制度があります。詳細についてはホームページ(<http://dhlsj.jp/dl/syushin.pdf>)をご覧ください、ご活用ください。
3. 同封の会員名簿の住所・所属、e-mail、電話番号等に変更がある場合は、同封の返信葉書でお知らせください。
4. 延期に延期を重ねていた第 15 回国際ロレンス学会(15th International D.H. Lawrence Conference)が 7 月にタオス(ニューメキシコ)で開催される予定です。詳しい情報については <https://www.dhlconf2020.org/> を参照してください。その他の国際学会等の情報については DHLSNA (D.H.Lawrence Society of North America) のホームページ(<http://www.dhlsna.org/>)、あるいは以下のサイトをご覧ください。<http://www.dhlsna.org/conferences-calls>

それでは皆さま、Zoom の画面上になりますが、6 月の大会でお会いできるのを、そして懇親会でお話をさせていただくのを楽しみにしております。